

ティーンズだより

みどりの翼



◆ とびっく ◆

新刊・この本読んで！

Read me !

「特集★ワイルドな世界」

気になる、この本！

特集+α(ぶらすあるふぁ)

お知らせ

Vol. 26



特集 **ワイルドな世界**

発行：田原市図書館

発行日：平成 21 年 4 月 18 日

〒441-3421 田原市田原町汐見 5 番地 TEL 0531-23-4946 FAX 0531-23-4646

<http://www.city.tahara.aichi.jp/section/library>

特集+α (ぶらすあるふぁ)

特集「ワイルドな世界」いかがでしたか？ジャングルやサバンナで生き抜く人や動物たちのパワーに圧倒されてしまいますね。

それでは今回も、図書館にあるCDやDVDなど、ぶらすあるふぁで紹介します！



☆「ワイルド」なCD&DVD

DVD『プラネットアース』 450/プ

NHKが製作した自然ドキュメント。自然の決定的瞬間がたっぷり楽しめます。

DVD『私たちのくらしと野生生物』

480.9/ワ

野生生物を守るワシントン条約についてよく分かるDVDです。

CD『静かな地球の上で』宗次郎 204/ソ

カナダ北半球の自然をモチーフにした一枚。オカリナの音色に癒されます♪

CD『濃縮極縮ベスト』

エアロスミス 201/エ

テーマが「ワイルド」ということでハードロックを一枚ご紹介。映画「アルマゲドン」のあの名曲も入っています！

CD&DVDは人気の資料です。

貸出中の場合は、予約をしてネ！

ところでみなさんは2009年が世界天文年だっただけでご存知でしたか？

2009年は、イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイが世界で初めて天体望遠鏡で宇宙を見た1609年から数えてちょうど400年目。それを記念して国際連合、ユネスコ、国際天文学連合によって今年が世界天文年として定められました。

ニュースで話題になっている国際宇宙ステーションきぼうをはじめ、7月22日には皆既日食がアジアの一部（日本では奄美大島など）でも観測できるなど話題がいっぱいです。

天気のいい夜は星空をながめてみませんか。

～ お知らせ ～

◎特別整理期間◎

5月の最終週から6月初めにかけて図書館の本をチェックするために少し長めのお休みがあります。各図書館で休館の日がちがうので注意してくださいね！

◎中央図書館

5月26日～5月29日

◎赤羽根図書館

6月2日～6月3日

◎渥美図書館

6月3日～6月5日

☆新刊・この本読んで！☆

1月から3月にかけて入った新刊からおすすめの本を選びました。

あなたのお気に入りが見つかるかな？

「虎と月」柳広司//著 理論社 913.6/ヤナ ティーンズ



父は虎になった。にわかに信じがたい話だったが、虎の父に会ったという袁參から贈られてきた手紙には、虎の父が詠んだ一篇の漢詩が、記されていた…。父親譲りの大きな体をしたぼくは、ある時自分でも信じられないほど暴れ、自分も虎になるのではないかと不安になる。真実を知りたくなったらぼくは袁參に会うため旅に出る。父が最後に目撃された村へやってきたぼくは、やがて“虎”とよばれる人たちの存在を知る。

はたして父は本当に虎になったのか！？

中島敦の『山月記』をモチーフにした「その後」のお話。

「半ケツとゴミ拾い」荒川祐二//著 地湧社 916/A ティーンズ



「夢なし、自信なし、希望なし」のダメ大学生だった著者。どうしようもない自分を変えるために一人で始めたのは日本一汚い新宿駅のゴミ拾い。毎朝ただゴミを拾うだけのはずが、ヤクザからツバを吐きかけられ、レスラーのケンカに巻き込まれ、さらにはカラスに追いかけるなどさまざまなトラブルに巻き込まれてしまう。そんなゴミ拾いを初めて手伝ってくれたのはズボンのゴムが切れ「半ケツ」状態のホームレスだった。そこから一人、また一人と仲間は増え、半年後には400人?! もの人々がゴミ拾いに参加するまでに…。始まりは小さなことでも自分が動けば人生は変わる、そんな元気がもらえる一冊。

「うしのひとりごと」高田千鶴//著 河出書房新社 645.3/タ ティーンズ



4月、新しい年度がはじまり、環境が変わったりして、緊張の連続でつかれている人も多いのでは? そんなあなたにおすすめしたいのは、脱力するコトウケあいのこの一冊!

タイトルどおり「うし」だらけの写真集です。写真はもちろん、かわいかったり、ちょっとへっぽこだったりして面白いんだけど、「今何考えてたんだけ?」とか「悪だくみなんてしてませんよ」とか……そえられている一言が写真とピッタリきて笑わせてくれます。うしの世界もいろいろあるのかな、なんてね。

癒しと笑いのひとときをどうぞ♪

図書館がオススメするすてきな本

Read me! 特集★ワイルドな世界

野生の世界は、日々食うか食われるかのシビアな世界。

そこで生き抜こうとする生き物たちは、

知的で、したたかで、かっこいい!

そんな「ワイルドな世界」へご案内します。

わたしたちが日ごろ忘れてしているかもしれない

“生きる力”を思い出させてくれるかも。



「上と外」上・下

恩田陸//著 幻冬舎 2007年 913.6/オン 一般



夏休み、中学生2年生の練は、妹の千華子、母とともに考古学者の父がいる中米のG国に家族旅行に来ていた。楽しい旅行になるはずが、クーデターに巻き込まれ、練と千華子は遺跡へ向かうヘリコプターからジャングルへ投げ出されてしまう。うっそうと茂る密林のおかげで、無傷で地上までたどり着いたふたりだったが、そこは自然しかないジャングル。何とか生き延びようと遺跡をめざすが、そこでさらにとんでもないことが待ち受けていた。

長編ですが、ドキドキの展開にぐいぐい引き込まれます。

「ゾウの王パパ・テンボ」

エリック・キャンベル//作 さくまゆみこ//訳 徳間書店 2000年 933/キ ティーンズ



アフリカでゾウの研究をする家族とともに、短い夏休みをゾウの観察しながら過ごすアリソン。ある日密猟者たちの仕掛けた罠でケガをしたゾウを助ける際、「パパ・テンボ」と呼ばれ人間に恐れられている1頭の巨大なゾウに出会う。仲間を殺す人間を憎んでいるはずのパパ・テンボと心を通わすアリソン。

ちょうどその頃、ニューヨークで偶然象牙の密輸を目撃したハイラムは、象牙を手に入れるために多くのゾウを殺す密猟者ヴァン・デル・ヴェルを捕まえるためにアフリカへと向かうが・・・

「デジタルカメラで撮る海野和男昆虫写真」

海野和男//著 ソフトバンク クリエイティブ 2006年 486/ウ 一般



迫力ある昆虫写真で有名な海野和男氏の写真集です。表紙からしてインパクト抜群。おなじみの昆虫もいますが、見たこともない昆虫もぞくぞく登場。あまりに不思議なカタチをしたカラダに作り物のような気さえしてしましますが、写真に写っていて学名もあるから、どうやら実在しているらしい。きれいだったりカッコ良かったり、気持ち悪かったり？不思議な昆虫の世界にハマってしまうかも。昆虫のデータとともに撮影に使用しているカメラが紹介もあり、巻末では昆虫写真を撮るテクニックを伝授！

「二人の小さな野蛮人」

アーネスト・T・シートン//著 中山理//訳 秀英書房 2000年 933/シ ティーンズ



ヤンはインディアンと自然に夢中の少年だ。14歳になり、農場で住み込みで働くことになったヤンは、猟師になりたいという農場の息子サムと親しくなる。意気投合したふたりは、仕事の合間にインディアンを真似て遊ぶようになり、インディアンに詳しいケレイブに教わりながらインディアンの家であるティーピーまで作りあげる。そんなある日、ふたりは休暇としてティーピーでの2週間のキャンプを許される。ルールは、なるべくインディアンのやるとおりに生活すること。失敗をしながらもふたりは多くの事を学んでいく。

「シートン動物記」で知られる著者の自伝的小説です。

「燃えるサバンナ」

澤見彰//著 理論社 2008年 913/サ ティーンズ



北方にケニア山をのぞむニエリ地方。草や水も豊かなはずのその土地では2年以上雨が降らず、そこに住むマサイ族たちは四十年ぶりの大干ばつに苦しめられていた。マサイ族には赤い太陽が出ているうちに、赤いライオンのたてがみを取ってくれば雨が降るといふ伝説が伝えられていた。忌むべき月に生まれ、呪われた名を持つ少女シバは仲間たちを救うために一人で赤いライオンを探す旅に出る。途中初恋の人を探す老人チャバ、シバを追いかけたマティンとともに赤いライオンがいるという死霊の大穴メネンガイへと向かうが…果たしてシバたちはたてがみを手に入れることができるのだろうか。

「失われた世界」

森 詠//文 C・ドイル//原作 講談社 1998年 908/ツ ティーンズ



新聞記者のマローンは、失恋の痛手から危険な仕事を望んでいた。部長からの仕事依頼は、南米アマゾンで信じられないものを見たというチャレンジャー教授への取材。そこから、アマゾン探検隊の調査に同行する冒険がはじまった！恐竜、翼竜、くび長竜が生きている断崖の上の台地をめざし、カヌーで上流へ。大蛇と遭遇したり、猿人と原人の争いに巻き込まれたり…。探検隊一行は無事に帰ることができるのか？まさにワイルドな世界がたっぷり味わえる一冊です。原作は、1912年に書かれたC・ドイルのSF探検小説『悪魔の棲む台地ロスト・ワールド』です。こちらも図書館に所蔵していますヨ！！

「ボノボ 地球上で、一番ヒトに近いサル」

江口絵理//著 そうえん社 2008年 489/エ ティーンズ



ボノボとはヒトにもっとも近いサルのこと。皆さんもよく知っているチンパンジーとそっくりで、なんと！ヒトとDNAが1%ちょっとしか変わらない「兄弟」のようなものなんだそうです。

一匹のボスが群れを支配するチンパンジーと違い、ボノボはメス同士の繋がりが強く争いをあまり好まないという平和主義。さらに研究所でヒトとともに暮らすボノボの中には、ヒトの言葉を理解し、ヒトと道具を使って会話までしちゃうんです。ウソをついたり、ゲームまでしてしまうなどまるで人間のようなボノボの生態がよく分かる一冊です。

「試すな危険！冒険野郎ハンドブック」

ハンター・S・フルガム//著 林雅代//訳 早川書房 2003年 049/フ 一般



「本書は、一般市民にはほぼ無関係な任務を紹介し、その実行の手順などを詳述したものである・・・」著者は大真面目に危険なことに挑戦するためのハンドブックを作ろうと思い立ち①必要なもの②所要時間③予備知識④実行の手順を詳細に調べた。専門家や友人の協力で完成した究極のハウツー本。任務を遂行！ってたぶん誰からも頼まれない事ばかりだけれど、想像しながらダイハード気分を楽しめる1冊です。ユーモア精神にあふれた本をよんで、平凡な一日をワイルドに変えることができますよ。アクション・ヒーロー志願者は必読。くだらない事が大好きな人にもオススメです！

「カランバ! アマゾン奥地へ向かう」

高野潤//著 理論社 2008年 296.2/タ 一般



「カランバ」とは南米でよく使われている、「こりゃまた」「なんてこった」などおどろきを表現する言葉。飛行機を乗り継いだうえに、カノアという細長い舟を使って川を上らなければたどり着けないほどのアマゾンの奥地。そんなアマゾンに住む現地の人びとから自然とともに暮らす知恵と工夫を学びながら、30年以上南米を旅しつづけてきた著者の思わず「カランバ」と言ってしまうようなアマゾン生活をご紹介します。

狩の途中で森で一人取り残されたり、川からの増水にキャンプ地が巻きこまれそうになったり、焚き火に使った木の中から大量の小さなサソリが出てきたりなどびっくりするようなことばかりです。

「おもしろすぎる動物記」

實吉達郎//著 ソフトバンククリエイティブ 2008年 480/サ ティーンズ

さて、あなたは「ブタは実は怖い動物だった」ことをご存知だろうか? どうやらブタはブタでもイノシシにまだ近かったであろう昔の話らしいけど、雑食のためか人間にも危害を与える事があったよう、背筋の寒くなる話です。逆に普段怖いイメージばかりのワニは意外と良いお母さん、なんて話もあります。人間と重ねるとほっこりしますね。ま、見た目はやっぱり怖いけど(笑)なるほどびっくりな74のエピソードが満載の一冊です。好きなどころからつまんで読んでもいいかも。



「気になる、この本!」

「この本読んで!」の投稿を紹介します。

「時計つくりのジョニー」エドワード アーティゾーニ//作 E/A

*もうたくさんあって書けません! だから1ことでもいいです。オレもあのひつものようになりたい!!! (ドッチン!!!さん)

「うちの3姉妹」松本ぶりっつ//著 599/マ

*テレビでもよくみている。(大橋美月さん)

掲示板前においてある「気になる、この本!」「投稿しよっ!」用紙を知っていますか? 「友だちに紹介したい!」とか「図書館にあったら、読んでみたいなあ~」というみんなの声を募集しています。投稿、お待ちしております!!

📖他にもこんな本あります♪📖

○「ティッピー 野生のことば」

ティッピー・ドゥグレー//著 水品修//訳 小学館 2001年 748/ド 一般

○「おサル王国 地獄谷野猿公苑の四季」

萩原敏夫//写真・文 講談社 2007年 489.95/ハ 一般

○「誰も知らない野生のパンダ」

小林達彦//著 経済界 2005年 489.57/コ 一般

○「野生動物と共存できるか 保全生態学入門」

高槻成紀//作 岩波書店 2006年 468/タ ティーンズ

○「狼とくらし少女ジュリー」

ジーン・クレイグヘッド・ジョージ//作 西郷容子//訳 1996年 933/ジ ティーンズ

○「かわうそタルカ」

ヘンリー・ウィリアムスン//著 海保真夫//訳 1996年 933.7/ウイ ティーンズ

○「リゴニー・ステルンの動物紀」

マーリオ・リゴニー・ステルン//作 志村啓子//訳 福音館書店 2006年 973/ス ティーンズ

★もっと調べてみたい人・ほかの本を探したい人へ★

図書館では調べものや本を探すお手伝いをしています。

カウンターなどで気軽に声をかけてね!

* 次回のテーマは「挑戦!」です。お楽しみに!

